

学生の皆さんへ:生成 AI の利用に関する注意事項

生成 AI(Generative Artificial Intelligence)は、ユーザが入力した命令(プロンプト)に応じてコンピュータが文章や画像を自動的に生成する人工知能技術の一つです。2022年11月に公開された米 OpenAI 社の対話型生成 AI(ChatGPT)はその代表例で、今のところ、誰でも無料で利用することができます。2023年2月に公開された大規模言語モデル GPT-4 を用いた ChatGPT は、人間に近い極めて自然な回答を生成することから注目を浴びています。今後さらに性能が向上することが予想され、近い将来様々な場面で人間の作業(文章作成やプログラミングなど)を補助する強力なツールになるものと考えられています。

大学での学習や研究においても生成 AI の活用に大きな期待が寄せられていますが、まだ未成熟で法的な課題も残されていますので、不適切に使用すると、皆さんの学習の妨げになったり、他者の権利を侵害したりすることが懸念されています。当面の間、授業や研究における生成 AI の利用については、担当教員の指示を仰いでください。特に注意していただきたいことは、次の4点です。

1. 生成 AI の回答はいつも正しいわけではありません。間違ったことを自信満々に回答することもあります(幻覚, Hallucination と呼ばれています)。また、情報にバイアスがかかっていることも指摘されています。さらに、生成 AI が学習した文章や画像に著作権があって AI の回答にそれらが含まれる場合、知らず知らずのうちに著作権を侵害してしまう可能性があります。生成 AI の回答が正しいかどうか、その利用が適切かどうかを判断するのはユーザで、生成 AI を使用する際の責任はユーザ自身にあるものであることを忘れないでください。
2. 学習過程で「考える」ことをすべて生成 AI に委ねてしまうと、皆さんの学力はほとんど向上しません。これは、マラソンランナーが早く練習を終えるためにランニングを避け、自動車に乗ってコースを周る状況に似ているかもしれません。生成 AI を補助的に利用しながら、学力の向上を目指してもらいたいと考えています。
3. レポートや課題の答案に AI の回答をそのまま使うべきではありません。授業内容の理解度を確かめるためのレポートや課題の回答を AI に答えてもらっているのは、その目的が達成されないばかりか、適正な成績評価が妨げられることになり、不正行為とみなされる場合があります。
4. 生成 AI のプロンプトに秘匿すべき情報(自分または他人のプライバシー情報、未発表の研究データや論文など)を入力しないようにしましょう。生成 AI は入力された情報を学習していますので、意図せず情報が漏洩する恐れがあります。

なお、今後も継続的に、教育への活用を含めた対応の見直しや検討を行う予定です。

2023年5月17日

富山県立大学 学長 下山 勲